

平成28年4月11日

稲沢市議会議長殿

議会改革推進特別委員会

稲沢市議会 第2回意見交換会報告書

- 開催日時 平成28年1月21日(木)
[午前の部] 10:00~12:00、[午後の部] 13:30~15:30
- 開催場所 稲沢市役所 議員総会室
- テーマ [午前の部] 「人口減少対策としての子育て支援について」
[午後の部] 「人口減少対策としての土地利用について」
- 出席者

	[午前の部]	[午後の部]
市民団体	子ども応援室 ここらぼ 古川泰子 子ども会連絡協議会 鈴木恵理子、窪崎 香 稲沢市小中学校 PTA 連絡協議会 鈴木敏弘 NPO 法人 たまごのあしあと 野口恵美 はんどるわっと 川口ゆかり ママサポート「ぴよぴよ」 小笠原三恵子、大野邦子 「みんなの学校」稲沢研究会 池山喜之、大川みどり れんこん村のわくわくネットワーク 大森真由美	愛知県行政書士会一宮支部 花木栄一、川添 広 愛知県宅地建物取引業協会 森部 洋、木村金男 愛知西農業協同組合青年部 高橋則夫、丹下孝則 稲沢市青年会議所 近藤尊寛 祖父江町商工会青年部 大橋尚毅、児島秀則 平和町商工会青年部 宅見裕甫、伊藤賢治
市議会	(議長) 加藤錠司郎 (副議長) 網倉信太郎 (議会改革推進特別委員会委員) 魚住 明、東野靖道、服部礼美香 加藤孝秋、杉山茂和、川合正剛 野々部尚昭、渡辺幸保 (市議会議員) 志智 央、遠藤 明、朽本敏子、 渡辺ちなみ、木村喜信、長屋宗正、 出口勝実、服部 猛	(議長) 加藤錠司郎 (副議長) 網倉信太郎 (議会改革推進特別委員会委員) 魚住 明、東野靖道、服部礼美香 加藤孝秋、杉山茂和、川合正剛 野々部尚昭、渡辺幸保 (市議会議員) 木全信明、大津丈敏、六鹿順二、 津田敏樹、吉川隆之、星野俊次 野村英治、平野寛和

5. 参加市民団体からの主な意見

(1) 午前の部：「子育て支援について」

- ・ 小学生低学年児童の暴力化の対策や不登校対策として、一宮市や尾張旭市では、文科省のモデル事業として、専門家ではない一般主婦を、子どもたちの話し相手として派遣している実例が有る。稲沢市でも、検討し、予算化して欲しい。
- ・ 稲沢市の子育て支援策が、全国で、あるいは愛知県内で、どの程度のレベルにあるのかを議員として意識して、子育て支援策のレベルアップに向けて取り組んで欲しい。
- ・ 子育て支援の施設を稲沢市で建設しようとしたが、市街化調整区域の制限が強すぎて、ハードルが高かった。
- ・ 子育て支援の行政としての取り組みが、稲沢市の場合、その方向性がみえにくいので、「子ども条例」を策定し、ビジョンを示して欲しい。
- ・ 新市民病院の院内託児所の設備があまりにもお粗末である。保育所としての施設機能整備を図り、院内託児所を職員の福利厚生施設として活用するだけでなく、地域にも開放し、休日保育や深夜保育、病時・病後児保育など多くの市民にサービスを提供すべきである。
- ・ 最近、男親のイクメンが話題となっているが、もっと男性が育児に参加できる状況を醸成すべきである。子育てイベント等は、男性が参加できる時間帯を考慮して開催して欲しい。
- ・ 子育て支援の取り組みも、子ども課と生涯学習課が別々に行っている印象が有る、両課はもっと連携を密にして有機的な活動をお願いしたい。
- ・ 駅前の一等地が、市街化調整区域で街灯も少なく暗く物騒である、若い女性が安心して住める市街地の形成に努力して欲しい。
- ・ 子育て支援の取り組みも、就学前までは充実しているが、義務教育に入るとそのサービスが低下するため、改善して欲しい。

(2) 午後の部：「土地利用について」

- ・ 企業誘致を推進しても、そこで働く人たちの住居を提供できなければ人口増加に繋がらない。平和工業団地の場合も人口増加にどの程度寄与しているのか疑問である。工業団地の造成に合わせて、住宅開発を行わなければ、人口減少対策にならない。
- ・ 稲沢市は、一宮市と比べて宅地が高いが、この要因は市街化区域が狭いことにある。
- ・ 公共交通機関の利便性の悪い稲沢市では不動産の価値は上がらない。名古屋からの地下鉄や名古屋市営バスの延伸を期待して名古屋市との合併を志向すべきと考える。
- ・ 岩倉市では、市街化調整区域であっても要件が不足していても住宅を建てられる、農地であっても、農地転用が容易なエリア指定を県から受けているケースもあるので、当市も参考にしては如何か。
- ・ 市街化区域を増やす事だけに注力することなく、調整区域の規制緩和、例えば居住期間を昭和45年以前とせず、30年あるいは20年間住んでいれば宅地転換が可能とする等に取り組むべきである。

- ・ 名古屋駅から電車に乗って、稲沢市に入ると、急に暗くなり何も無くなり、そして一宮に入ると街の灯りが明るくなる印象を乗客に与える。稲沢市のまちのイメージは暗く、そんな街に住みたいと思う人はいないだろう。まちのブランドイメージを高める努力が大切である。
- ・ 稲沢市の中心は国府宮駅かもしれないが、平和町の生活圏は津島市にある。稲沢市にこだわることなく行政の広域化を目指して欲しい。
- ・ 稲沢駅前広場を市民に開放し、野菜や物を売ったり、自分の商店の宣伝ができる自由市場にして人を集める情報発信の地としてまちの活性化を図っては如何か。

6. 市議会としての所感

- ・ 参加者と自由闊達な意見交換ができ、有意義であった。いただいた意見を尊重し、今後の議会活動の中で、政策提言に取り組んで参りたい。
- ・ 子育て支援に関して行政部門間の連携を求める意見をいただいているが、この点に関して議員側から、稲沢市としてその解決に向け、これまでは、保育園は福祉保健部で、幼稚園は教育委員会だと分かれていたものを、「こども課」で保育園も幼稚園も対処できる仕組みに変え取り組んでいることや28年度からの新事業として、子育て支援における縦割りの弊害をなくし、18歳までの継続支援を目指す「子育て世代包括支援センター」を設置して取り組んでいく等の発言があった。
- ・ 土地利用において市街化が進まない点に関して議員側から、稲沢市の場合、市街化の取り組みは、市施行の区画整理事業が中心であり、今後は財政的に限界があるため、地権者がこういうまちにしたいとのまちづくりの明確な意思に基づく地権者が中心となった地区計画と組合施行の区画整理事業を進める必要がある等の発言があった。
- ・ 今回の意見交換会を通じて、「こども条例」と「市街化調整区域の規制緩和」の2つのテーマについて、議会として更なる調査研究を行うこととした。
- ・ 子育て支援のテーマは、広範囲にわたるため、年齢別（幼児と学童）やハードとソフトに分ける等テーマを絞り込む必要がある。
- ・ 議員から自由意見の発言が少なかったように感じたので、意見交換会の前に議員間討議（政策討論会）を実施するなどして議員側の意見をまとめる準備も次回検討してみたい。

以上